

令和5年度 第4回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和6年3月12日（火）10時00分～12時00分

四国森林管理局 局議室（Web 併用）

2 議題

- （1）管内における木材需給、価格動向等について
- （2）各分野における現状や今後の見通しについて
- （3）その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

国産材製品については、構造材を中心に動きが停滞しており、製材工場では出荷量の減少や価格の値下げなど厳しさを増している。

このような中、丸太の需要においては、スギ材は製品の荷動きを反映し引き合いが弱く価格も低迷、ヒノキ材は直近でも原木の不足感があり比較的安定した引き合いがあるが、価格は概ね保合で推移、出材が増えれば弱含むのではないかとの意見もある。

以上の結果から、現時点では民有林材の出材状況や製材品の動向等に注視しつつ、需給動向を見極めていくこととし、国有林材の供給調整を行う必要性はないと判断する。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・ 原木の生産量は、10～12月の半期では対前年同期比で115%と増加。一方で年明けからは降雪などの影響があり、若干減少すると見込んでいる。ヒノキの価格は徐々に高くなっているものの、ヒノキへの生産シフトは現状では見られない。
- ・ 現場では休業もできないので生産活動に変化はない。出材状況は、ヒノキは安定しているが、スギは引き合いが低調、山元での調整はできないので仕方なく出材されている状況にある。
- ・ 天候等の影響も少なく生産活動は比較的順調に推移している。ただし、生産現場の奥地化等作業環境の悪化や就業人員の減少等により、現場によって生産性に大きな隔たりがあるのではないかと。現場の人員不足は慢性的で、一定の機械化は進んだ感はあるが、人が必要とされる要素は数多く、人員確保は重要な課題である。

○ 原木市場・共販所

- ・ 降雪の影響も少なく出材量は例年どおり。販売に関しては、ヒノキは引き合いがあるが、スギは引き合いが弱い状況が続く。価格はスギ、ヒノキともに横這い。住宅着工率の低下や公共事業の木材需要の低迷が続く中、今後は下がり気味になる可能性もあるのではないかと。
- ・ 天候も安定しており、入荷量はあまり変化はない。樹種割合については、スギの動きが悪い状態が続いているため、出荷者はヒノキの割合を増やし気味ではないか。価格は、スギ・ヒノキともに大きな変動はないが、2025年には建築基準法の4号特例変更などもあり、長期的にはその影響が出る可能性があるのではないかと。
- ・ 入荷量は、例年に比べ雪の影響が少なく、スギ・ヒノキともに安定。販売は、ヒノキについては、全体に引き合い強く良好。スギについては、製品荷動きを反映し鈍化。価格の動向では、ヒノキについては全体に売行き良好で堅調相場を維持。スギについては状況あまり変わらず横ばい。ヒノキも出材が増えれば弱含むと予想している。

○ 製材工場等

- ・ グリーン材も乾燥材も動いていない。年末も悪かったが、1月、2月と更に価格も下がっている。高知県内のプレカット業者も動きがほとんどない状況である。大型製材工場や大型プレカット工場を中心に、状況悪化を乗り越えようと仕事の取り合いが始まっている。また、職人不足から在来パネル化が進んできており、2025年の法改正までに木材を取り巻く環境は大きく変わると感じている。
- ・ 通常通り順調に生産しているが、ヒノキの原木調達は出材が少なめのため不足気味で、原木在庫は減少している。製品出荷は減少。価格は零困氣的に値下げの方向だが何とか横ばいで販売している。原木の価格高、製品の価格安、経費高等、製材工場にとっては、大変厳しい状況が続くそうである。
- ・ プレカットの動きも非常に悪く実需がない。大手の小売り、問屋と本決算を前に在庫調整も行っている。値下げも始まった。本当に先が見通せない状況である。2024年問題、4号特例問題、インフレと非常に厳しい新年度を迎えることになる。ターニングポイントの年になるのではないかと。